

「特別の教科 道徳」学習指導略案

つばき学級 25名
指導者 鈴木 杏里紗

1. 主題名 「わたしの家族」 C-13 家族愛、家庭生活の充実
2. 資料名 「おふろプール」(出典:学研「みんなのどうとく②」)
3. ねらい

自分と家族の関わりを思い出したり、自分に対する家族の気持ちを考えたりすることの大切さを理解し、
すすんで家族のためになることをしようとする心情を育てる。

4. 展開

	学習活動(○発問、☆中心発問)と児童の反応(・)	◇指導上の留意点 ◆評価の視点
導入 5分	1. 夏休みの生活や家族との思い出を振り返る。 ・家族でごはんを食べに行った。 ・おじいちゃんに、おもちゃを買ってもらった。 ・きょうだいと喧嘩した。	◇思い出を振り返りながら、本時のテーマが家族との関わりであることを伝え、授業の大まかな見通しを持たせる。 ◇思い出することが難しい児童には、絵日記などを手掛かりにして振り返らせる。
展開 35分	2. 「おふろプール」を読んで、家族との関りについて考える。 ○お母さんの気持ちを考えたけんたくんの心の中は、どうなったでしょう。 ・困っていたな。 ○家族にイライラしたり、怒ったりしたことはありますか。 ・宿題をやりなさいと言われて、言い返した。 ・バスに乗りたかったのに、乗らせてくれなかった。 ☆プールに行けなかったのに、どうして「まあいいか」と思えたのでしょうか。 ・お風呂で遊べたから。 ・お母さんが一緒に入ってくれたから。 ○おうちの人のために頑張ったこと、やっていることはありますか。また、これからやってみたいことはありますか。ワークシートに書きましょう。 ・洗濯物を畳んだ。 ・家族が忙しいから妹のお迎えに行っている。 ・お皿洗いのお手伝いならできそう。	◇場面の内容や設定をより具体的に話し、気持ちを考える手掛かりにする。 ◇家族に対して、イライラする気持ちを抱くことがあることを受け止めながら、家族の気持ちを考えられるようにする。 ◇お手伝いだけでなく、児童が頑張っている姿そのものや、楽しく生活している様子が、家族を温かい気持ちにさせることに気付かせる。 ◆評価 家族を思いやり、すすんで家族のためになることについて、考えようとしている。 (発言・ワークシート)
終末 5分	3. 活動を振り返る。	◇家族を思いやり、感謝の気持ちもって関わったりしようとする気持ちを価値づける。